

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
鹿沼市	永野地区（下永野、上永野）	令和3年 3月25日	令和6年 3月31日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	208.6ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	159.3ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	66.5ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	6.4ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	23.6ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0ha
(備考)	

注1：③の「○才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2：④の面積は、下記の「(参考) 中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4：プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

・下永野は、近年、大規模な農地集積が行われ、実施前は1割台だった担い手の耕作率が約4割弱にまで上昇した。一方で、鳥獣被害により一部集積ができなかった区域が残っており、今後どのように集積・集約化を図るかは課題である。

・上永野は下永野の北西に位置し、縦長に伸びている。地区面積・農地面積ともに下永野を大きく上回っているが、担い手への耕作率は2割弱にとどまっている。基盤整備がされている農地も多いため、将来を見据え、より一層の農地集積を図っていく必要がある。上永野の奥に位置する与洲地区（隣接する山口地区の一部を含む）は、道が狭小で農地も未整形なことに加え、高齢化、人口減少により農業継続が困難な区域も存在する。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

・下永野は一部農地集積が未実施だった区域について、野生鳥獣被害対策を講じた上で集積・集約が可能か検討する。それ以外の農地については可能などころについては概ね集積がされているため、後継者不在により将来的に遊休農地となった場合、できる限り地域の担い手で営農継続を図っていく。

・上永野は基盤整備されている区域を中心に、地域の担い手による農地集積・集約化を図っていく。一方で、奥に位置する与洲地区（隣接する山口地区の一部を含む）は地理条件的にも営農していくには不利な面もあることから、今後地域で守っていく農地を明確化していく。

注1： 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2： 「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。